

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第2回 理事会議事録

令和3年3月29日（月）20:00～22:00

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、
田中信弘、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、
長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

会議はweb会議で行われた。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。追加で修正等ある場合は、渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（3月分）

3月の入退会について全員を承認した。

3. 教育研修委員会より：教育研修委員会より：モニタリング認定医規程一部修正の件
モニタリング認定医の申請には脊椎脊髄外科専門医の認定が必要だが、その情報がマイページには上がっていなかった。本年2月にそれについて理事会の承認を得てアップを完了したため、モニタリング認定医の規程内の申請に関する部分を修正した規程が示された。附則の一部を修正して承認した。

4. 倫理委員会より：学会員へのアンケートに関する、本学会の方針について（アンケートデータの帰属、データ管理、論文化）

本学会が行う学会員へのアンケートに関する学会としての方針について以下を確認した。

- 1) アンケートデータの管理と帰属：学会が管理し、データは学会に帰属する
- 2) 研究費：できる限り学会主導の形で行い、学会の費用を研究費にあてる
- 3) 論文化：主導した委員会の名前で発表する

以上、一同確認し承認した。

そのうえで、上記が周知徹底されていないため、倫理審査申請書に記載されている研究の主体、研究費の出所、研究者の所属などが倫理審査上問題になることが報告された。また、それぞれの研究の中心的医師が委員になっていないことについても議論した。何らかの別の名称（研究協力員など）でそのときだけ委員会に協力してもらうなどの案が出たが、引き続き検討事項となった。

また、関係企業から、当該研究とは直接関係のない目的で学会本体に寄付が入っている場合でもCOI開示が必要であるとして、COI担当の川原理事に状況の確認を依頼した。

5. JSR編集委員会より：JSR抄録号のJ-Stage掲載、JSR関連学会分担金、編集委員交代

JSRの抄録号は杏林舎のサイトにはすでに掲載されているが、J-Stageには掲載されていなかった。将来、編集社を変更する等の場合に、国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するJ-Stageへ掲載させておくことは、学会知財を担保するうえで重要であるため、業務費用見積書とともにJ-Stage掲載を承認した。「JSR関連学会分担金」については、現在の年間150万円から125万円とすることで関連7学会すべてと合意したため、昨年末に本年分として結んだ150万円の覚書は破棄の上、あらたにすることを承認した。

また低侵襲脊椎外科学会の編集委員の交代に伴い、高野委員に代わってJSR編集委員を石井賢先生に委嘱することを承認した。

6. プロジェクト委員会より：委員交代について、腰曲がり運動研究事務局代表交代について

大阪市立大学の星野委員が学外に異動となったため、同大学の寺井医師に委員を交代、ならびに腰曲がり運動研究事務局の代表についても寺井医師に委嘱したい旨提起され、承認した。

7. 財務委員会より：令和3年度予算案の件

新年度の予算が提示された。前期の繰越金の部分については、現時点で前期決算が固まっていないためその前の年度の金額のままになっていること、毎年発生する大きな予算を、執行業務については委員会業務とは別建てにしたことが説明された。内容を確認し、前期繰越金部分以外を承認した。

8. 大正アワードについて

前回議論となった大正アワードの募集要項について、その後に行われたメール審議に基づいて、基礎・臨床を通じて応募は一人一論文とすることを確認した。大正製薬の

常務にも了解をもらっている。

9. その他

広報委員会担当の田中理事が、HP 管理・運営に関する契約更新について前回理事会ではペンディングとなったが、3月末に現在のHDC社との契約が切れるため、新業者を決定したいと提起した。委員会としては前回理事会でも候補として挙げた株式会社スターコムを考慮しており、理由は費用面と担当者が以前JSSRのHPの運用をしていた人物であることなどである。検討の結果、新業者を株式会社スターコムとすることを承認した。契約については広報委員会のほうで進めていく。

2. 審議・決議事項

1. 倫理委員会報告

前回理事会以降倫理委員会で行った審議結果や経過について報告された。

2. 広報委員会報告

第50回学術総会の広報用動画をHPに掲載したことや帝人ナカシマメディカル株式会社からHPバナー広告の申し込みがあったことが報告された。

3. 指導医制度委員会報告

指導医の新規・継続申請については従来紙ベースの郵送方式であったが、本年よりシステムを組んで全面的にWEB申請に移行することが説明された。特殊な理由がある場合に限り、事務局にてwebにアップする業務を代理で行う。

4. 財務委員会報告

令和2年度の決算が報告された。ただし第49回学術集会が後ろ倒しになったために学術集会部分の決算が固まっておらず、学会本体の収支のみである。ここまでの学会本体部分の監査についてはすでに小澤監事・小西監事をお願いしており、学術集会の決算が整った時点で再度その部分の監査を行う。

5. 新技術評価検証委員会報告

XLIF症例数、JSSR-DB2021におけるLIF合併症項目について報告された。また、各WG報告として頸椎人工椎間板WG・セメント注入型スクリューWG・ACR・胸椎XLIFWG・OLIF51WGの進捗や問題点が述べられた。

また、学会で一度認定した施設の認定取り消し等の規約を今後検討し明文化する必要があるのではないかと意見がだされており、継続審議中である。

6. 専門医制度委員会報告

2021年度脊椎脊髄外科専門医試験の応募状況（3月18日時点）が報告された。4月はほぼ満員で、6月と11月は残席があるため、4月9日まで募集の延長を行っている。

コロナ禍で現地受験が難しい受験希望者も出てくるので、将来的にCBT試験（1か所の試験会場に集まるのではなく、各地に設けられる試験会場にそれぞれが出向き、Webを利用した同一の試験を受けられる方式）も検討していくことになった。

7. 社会保険システム等検討委員会報告

ヒトトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血材（サージフロー、フロシール）査定状況の把握のためのアンケート実施については、資料に示したとおりの内容で実施を予定している。アンケートの対象を評議員とすることを承認した。

また本件は、9月開催の全国整形外科審査委員会議で説明時間を提供してもらえることが決定した。

なお、フロシール保険査定実態調査 実施結果としては、2018年12月19日～2019年1月11日の期間、オンライン調査を実施し「フロシール使用経験がある」医師146名から有効回答を得たが、使用医師の約4割が保険請求において返礼を受けている状態ということがわかった。

別件、2022年度要望書類については
新規要望項目として

- ① 自己骨髄由来間葉系幹細胞移植術（酒井大輔先生）
- ② 立位全身骨撮影（EOS）：継続要望（宮城先生）
- ③ 立位全身骨撮影（術前精密）（EOS）：継続要望（宮城先生）
- ④ （筋肉量測定：腰痛学会を通じて内保連から要望）→JOAより提出予定

改正要望項目として

- ① 人工椎間板置換術増点要望（平井先生，吉井先生）
- ② 髄核融解術（平井先生）：認定証の更新期限についても記載する
- ③ 画像等手術支援加算 患者適合型手術支援ガイドに脊椎手術を追加：継続要望（遠藤先生）
- ④ K931 超音波凝固切開装置等加算の脊椎前方手術への適応拡大（リガシユア，ハーモニックなど）（牧先生）
- ⑤ 脊椎側彎症手術の注に後彎症矯正の追加（八木先生）
- ⑥ 上位頸椎加算（渡邊先生）
- ⑦ 内視鏡下椎弓形成術複数椎間加算：継続要望（高野先生）
- ⑧ 通則14の追加（内視鏡下椎弓形成）：継続要望（高野先生）

廃止要望項目として

- ① (K117-3 椎間板ヘルニア徒手整復術：日整会から廃止要望)

以上を提出することを確認した。

8. 国際委員会報告

SPINE ACROSS THE SEA(SAS)の件で日本から提出した演題についてNASSからオートマテックに不採用の通知がされるなど残念な対応があり、国際委員会からNASSへは抗議をした。そこでNASS側から折衷案が届いており、いくつかのアブストラクトをまとめるなど、現在交渉を進めているところである。また新たな動きがあれば理事会で報告することになった。

松山理事長が、APSS-APPOSのほうは順調に日本からも200名弱の参加者があると報告した。

一方JSSRが主催しているアジアトラベリングフェロー(ATF)は昨年選出された先生方もまだフェローに行けておらず、今後のことも未定であるので、国際委員会のほうから各先生に連絡をすることになった。

ATF予算については、今年も渡航できるのか否か難しい状態にあるが、予算としては以前と変わらない額を計上することを確認した。

9. JSR編集委員会報告

『JSR』誌への二重投稿の疑いのある論文があり、リジェクトしたことが報告された。以前から二重投稿については問題となっており、著者が悪意なく誤った認識のもとに二重投稿するケースが多い。今回の二重投稿についても著者は解析の方法が違うから投稿しているとの意見を述べていたが、実際には二重投稿の中の「分割出版(サラム出版)」といわれるケースにあたっていた。

今後同様のミスが起こらないように、二重投稿の詳細についても明記した新投稿規程案が提示され、一同修正部分を確認し承認した。

10. その他の委員会報告

データベース委員会の筑田理事が、JSSR-DB 2021の概要、ロードマップ上現在はどこまで業務が完遂されているかを示し、今後の予定を説明した。

第50回JSSR学術集会にて、JSSRレジストリの第1回説明会を行う予定である。

また、脊椎関連DB概要としてJOANR・JSIS-DB・JSSR-DB2021・JSSR-新技術についてそれぞれの登録対象・登録疾患名・登録手術名・施設登録の違いを一覧に示し説明した。引き続き毎回理事会で進捗等を報告することとなった。

11. 第50回学術集会会長より：JSSR2021準備状況について

1. 第 50 回学術集会準備状況（事前登録状況、指定演題・座長の現地参加予定、社交行事予定の変更、広報用動画の HP アップなど）が報告された。
2. 講演の動画の二次利用の件
共催セミナーを依頼している企業より、共催セミナーで録画した講演内容について演者には承諾を取ったうえで医家向け会員制無料Webサイトや電子、映像または印刷の媒体として活用してよいかとの問い合わせが書面で提出された。前理事会での二次利用に関する議論を踏まえ、著者と企業間で合意を得ているのであれば問題ないとして承認した。
3. オンデマンドの講演について
他雑誌の論文の図表については出版社が権利を持っており、無断使用すると問題になるケースもあるので、演者にそのあたりはよく理解していただき、講演スライド等を作成していただく必要がある。こういった問題については、これからますます厳しくなると予想されるため、日本整形外科学会や医学会総会が指標や基準を作ることになった場合、当学会もそれに合わせて対応していく。

12. その他（評議員会、総会、式次第 席順）

渡辺理事が、評議員会・総会の式次第や席次、委員会報告資料についてすでに事前配布しているが、気になる点があれば、連絡してほしいと依頼し、一同了解した。

※資料中の予算・決算は上記の議題で審議されたように、現状最終版になっていないため、今後差し替え予定である。

以上

令和 3 年 3 月 29 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭